

Dialog



Vol.161

世田谷区民合唱団会報

2023-1

2023.3.22

2023年2月19日に名曲コンサート開催

3年ぶりに人見記念講堂にて、黒岩英臣先生の指揮の下でブラームスの「ドイツレクイエム」を世田谷フィルハーモニー管弦楽団と共演しました。昨年の定演では4楽章迄でしたが、今回7楽章全曲を歌い切りました。2回のオケ合わせやゲネプロや直前のリハーサルにいたる迄、さまざまな不安を乗り越え大曲に挑みました。さて団員の皆様の胸中にはいかがでしたでしょうか。



名曲コンサートを終えて

音楽監督 坂本 秀明

10月9日の定期演奏会の後、黒岩先生が11月23日に来られるとのこと。しかし、まだ第5、第6、第7楽章はまっさらな状態。はっきり言って不可能と思ってしまいましたが、「不可能を可能にするのが音楽監督の役目」と奮起して練習スケジュールを組みました。

早出練習や特別練習もとっていただき、なんとか黒岩先生の初回レッスンまでに間に合わせた(?)つもりです。

80歳になられた黒岩先生の棒は想像以上に遅く、そのかわりクレッシェンドとデクレッシェンドで表情豊かに気持ちを込めるというご指導でした。皆さんが真剣に先生の期待に応えようと、努力されている姿は誇らしく思いました。

黒岩先生は本番が近づくにつれ、腰痛が悪化され、初回のオケ合わせのころは歩行が困難な状態になりました。それにもかかわらず、2月8日の三茶オリオンの練習に来ていただき、弱ポイントの指導をしてくださいました。そしてリハ、ゲネプロ、本番と皆さんとともに乗り切ってくださいました。

本番、私は1階の下手寄りの席で聴いていましたが、1階ではオケの音が大きく、皆さんの声が聴き取りにくい所がありました。しかし、2階席で聴いていた嵐田先生から「合唱の声がよく響いていた」という感想をいただきました。

本番直前にゲネプロでズレてしまった箇所をロビーで修正しましたよね。でも本番では黒岩先生もズレるのを恐れて、ルバートせずに普通のテンポに戻されました。アレ？あの練習は何だったの？と皆さん思ったのではないのでしょうか。

先生の棒に見事に応えた皆さん、素晴らしかったです。このハードな練習で皆さんの体力はコロナ前に、いやそれよりもさらに強くなったのではないのでしょうか。

次回の定演はワクワクする曲ばかりです。楽しく練習して、聴きにきてくださるお客様に感動をお届けできるように頑張りたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。



委員長のご挨拶

委員長 神保 仁士



皆様！ 無事に終わりました。

ご苦労様でした。そして頑張りました。よくここまで仕上げて頂きました。

指揮者の黒岩先生、坂本先生そして団員の皆様が一体となった成果なのでしょう。

棒の振り方、テンポが毎回の如くに変わる。その都度戸惑いながら本公演直前まで対応に迫られ、本番はどうなるのかドキドキ、ワクワク。

最初の棒と本公演の棒が大きく違ったことで、7回も指導に来ていただく必要が無かつ

たのでは、との意見も出そうですがその反対だと思います。前回のヴェルレクの時と同様にエキストラを入れる要望は有りませんでした。今回は特にパートバランスを考慮すると、要望は必然性が高いと思われます。が、黒岩先生は一言も要望されていません。

現在の合唱団の状況を理解した上で、最善の演奏形態を幾度も模索し、現在のレベルで最高の演奏を引き出すために本公演の棒になったのだと思います。

黒岩先生には感謝の念しかありません。

ここまでは運営責任者としての感想。

名曲コンサート実行委員としては、「何が何でも予定通りに始まって、少し超過しましたが時間内に終わって良かった」。

人見講堂での三日間は指揮者の存在確認が最初の仕事です。来てればその日の実行委員の仕事はお終い。1月末から合唱団とフィルで黒岩先生の練習状況について頻繁に情報交換を行いました。毎回の如くに、練習会場に無事に来て頂けたか、指導の様子は、本番近くになって自宅で階段から転げ落ちた、の話を聞いて演奏会中止、代役が必要？ 幸いなことに大事に至りませんでした。その他にもここでは記せない墓場まで持っていく話もありました。繰り返しますが、大きな事故も無く本当に終わって良かったです。

指揮をしっかりと見ないと合唱にならないことを今更ながら学んだ演奏会だと思えます。もう一つ、運営責任者の立場から幾度も同じ注意を受けたことで、非常に恥ずかしい思いをしました。今後は止めて下さい。



(皆様、指揮者を見ましょう。クレッシェンド、デクレッシェンドをはっきりと歌いましょう。

pp、ff 等々を大胆に表現できるよう歌いましょう。 注：柴田)

T17 古川 健彦

この度の名曲コンサート「ドイツレクイエム」は、自分にとっては第九以外ではじめてのオーケストラと共演の大曲でなんとか最後まで歌いきれたことで安堵しています。

去年最初の練習ではこんな大変な曲を本当に歌えるのかなと言うのが正直な感想でした。でも定期演奏会で前半を何とかこなし、名曲コンサート前は黒岩先生の熱心なご指導を、頂き特別練習などを経て、何度も通し練習を重ねてきた結果だと思っています。

今から思うと苦労はしたけどそれなりに達成感がありました。これからもチャレンジしていきたいと考えています。自分の感想は以上ですが、以下お客様からのコメントを紹介させていただきます。

昔の第九の仲間A：

「憧れのドイツレクイエムが聴けて感激です。CDで聴くのと違い迫力が全然違いました。合唱はピアノシモ、フォルテの強弱の差が確りついていて良かったです。オーケストラの生演奏も素敵でした。」

友人B：

「昨日のコンサートには家内と二人で出掛け、堪能させて貰いました。演奏会の成功おめでとうございます。ドイツレクイエムは勿論のこと、あのような大人数の合唱団付き演奏を聴くのも初めてだったので感動しました。合唱団の男女構成比が絶妙で、素晴らしい歌声に心を揺さぶられました。(古川のツブヤキ：テノール10人で良く頑張った)」

友人C：

大変楽しく聴かせて頂きました。

演奏後の写真を撮りましたので添付します。



ドイツレクイエムを歌い終わって、感想あれこれ

T11 田中 富士夫

ああ疲れた、しんどかった、やっと終わった。というのが、歌い終えての正直な感想。

昨年から演奏会を含めて10ヶ月にも及ぶ練習。ひとつの曲を続けて、これほど長期に取り組んだ記憶はない。坂本先生のYouTubeの力も借りて、少しはましに歌えるようにはなったが、ただ、中々完全とはいかない。

黒岩先生のゆったりと振るタクトにも合わせられない。(このゆったりさは楽譜にPerforming Time approx. 80 minutesとあるとおりののだが) 案の定、本番では歌詞はとちる、音は外す、リズムは狂う、挙句に落っこちてサイレント状態に。

切っての宗教音楽指揮者が、不自由な身を押しながらのタクトで歌えるというのはとんでもない僥倖なのに。でも、こちらの能力がついていかない、息も絶え絶え。うまく合わせられないことへの後悔ばかり。苦勞した甲斐あって成し遂げたという喜びには程遠い気分。思うに、取り組む姿勢が甘かったと反省。(いつものことながら) それはさておき、総勢90名による合唱、全体としては、良かったのではないか。

聖書から抜粋されたなじみがあるとはいいい難い歌詞、ブラームスのとてつもなく難しい曲。にもかかわらずよくぞやった。今後のレベルアップに期待。とちりの多い小生ながら、引き続きお仲間に加えられんことを。

オケとの演奏で改めて思う。日頃の練習でのピアニストの何と親切なことか。こちらに合わせて弾いてくれているのだ。オケとでは、ともすると合唱は引きずられてしまう。合唱が構ってもらえることはないといってもいい。再々、自分がどこにいるのかわからなくなる。練習でのピアニストに感謝多々。

それにしても、マスクの邪魔なこと！大判のマスクにはしたが、口を大きく開ける度に顎でマスクが押し下げられて、低い鼻から外れる。何とも気になってしょうがない。次にはきつとマスク無しで歌えますように。



北沢タウンホールでオケ合わせ2月4日



人見記念講堂で2度目のオケ合わせ2月17日

A51 渡邊 悠子

開催実現にあたって多方面に亘りご尽力下さった先生方、実行委員会の皆様と運営委員会の皆様方にまず深く感謝致します。本当にありがとうございました。

名曲コンサートにドイツレクイエムを、と決まってからの道程は遠く長いものでしたし、休止期間中そして練習再開後も、刻々と変わりゆく不穏な世界情勢のなかでも、唯一希望を繋ぐ坂本先生の動画レッスンは実に有効な手段であったと思います。

黒岩先生のレッスンが始まってからは、各楽章の奥深い面白さに加えて、曲想の重圧感もヒタヒタと迫り来るように感じて参り、更に年明け以降は自分の置かれている状況下、健康管理は基より家族が変わりない毎日を営んでいくことに重きを置く、正に綱渡り状態の重く苦しかった日々でした。

ゲネプロ後でもギリギリまで諦めない坂本先生のワンポイントレッスンにより私たちの士気は一層高められ、本番は、もしかしたら音楽の神様が舞い降りてきて下さったのかしら？と思えるほど各々のパートに魂が宿り、指揮者とオーケストラとの一体感をより感じられた演奏だったのではないのでしょうか？

少なくとも私にはそのように思えましたし、実際自分でも、オケの音もしっかり聴き分けられ気持ち良く歌い終えて、終演後の先生のやや紅潮された微笑み顔を拝見致しましたら、今までの中では一番先生のお気持ちに寄り沿えたカナ…と。達成感と一体感とでやはり胸が一杯になるほど感動致しました。

特に7楽章のB43小節から僅か5小節の男性2パートの低奏和音(ここ大好きなんですけど)は、修道院の長く薄暗い廊下を司教がゆっくり歩いていく映画のワンシーンのような光景が何故かいつも目に浮かび、ラストに向かって静かながらも深い感動に包まれながら歌う自分がいました。

今回アルトは、各々のご事情により何人ものベテランの方々がコンサート不参加となってしまう、声が小さい！と指摘され続けてきましたけど、〈山椒は小粒でピリリ！〉を目指して、これからも皆様よろしく願いいたします。ありがとうございました。

合唱デビュー戦記

A65 延興 桂

私は昨年入団し、秋の演奏会は仕事で不参加でしたので、今回がデビュー。合唱は高校の音楽の授業以来、オケと一緒になんて全く初めてです。

そんな超初心者にブラームスのレクイエムはあまりに難解で、当初はちんぷんかんぷん。怠惰な私には珍しく、自宅でパート映像やCDで密かに練習しましたが、音程も歌詞も心許なく、特にフーガはいくら練習しても、他のパートにつられて頭真っ白。歌えるようになるのか私？

不安は、黒岩先生のご指導が始まって、ますます大きく…楽譜にかじりついてなんとか歌っている状態でしたので、先生の緩急自在なテンポに全くついていけず、何度「指揮を見て！」と叱られたことでしょう。初オケ合わせもショックでした。CDで予習したのに、ナマの演奏に対抗して声を出すのは本当に難しく、いろいろな楽器の音に大混乱。

そして人見記念講堂。クラシックファン憧れの名ホール、青い海のような客席も美しく、ここで歌えるの素敵～！なんて浮いた気持ちは、リハーサルで雲散霧消。ちゃんと指揮を見

て！クレッシェンド！アルト聞こえない！のお叱りに必死に声を張り上げ、本番の朝には喉がガラガラ・・・

そしていよいよ本番。無我夢中で記憶があいまいですが、怪我を押して指揮台に上られた黒岩先生に、オケも合唱団も、全員が全神経を集中して力をすべて出し切る一体感に、心から感動しました。もちろんあちこちミスもあったし、客観的な出来はともかく、私としてはこれまでで最高の出来だったと思います！そして後半では、自分でも信じられないほど心が高揚して、天上の神様に向かって歌っているような気持でした。黒岩先生、ありがとうございます！そして、勝手もわからずオロオロする私に、合唱団の先輩お姉さまたちはとても親切でした。なにかと気を使って、楽屋の場所わかった？荷物こっちどうぞ？座ったら？などなど、優しく声をかけて下さり、感謝感謝。そして何より坂本先生、いつも楽しく時に厳しくご指導いただき、ありがとうございます。来年の第九も楽しみです！

名曲コンサートを終えて

S34 鈴木 マリ



黒岩 先生 (左) と 鈴木 マリ さん (右)

2020年の名曲コンサートが中止になって3年。ようやく名曲コンサートを開催することができました。この前例のない事態の間、団の運営に携わられた方々のご尽力に改めて感謝申し上げます。また、ドイツレクイエムという難曲をご指導いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

それにしてもなんと難しく、また美しい曲だったのでしょうか。

反則すれすれの転調を繰り返して調性が混濁していく中を、全てを超越した旋律が7曲を通して断固たる“ゼーリッヒジント”に導いていきます。自パートのメロディーだけを追っただけでは歌えなかったのが、何回も音源を聴いて全体の曲想をつかむようにしました。定演のピアノ伴奏も素晴らしかったですが、オーケストラの伴奏はまた格別でした。こんなにも緻密に構成された美しい作品をオーケストラと共に演奏できる幸せを感じながら歌うことができました。帰り路で一人になるとふと悲しくなって困りました。ブラームス・ロスだと思います。

ご指導の中で黒岩先生が「ブラームスの心の中に響いていた音楽を、聴きに来てくださった方々に届けようではないですか」とおっしゃっていたのが忘れられません。楽譜はただの紙切れですが、そこに書かれた乾いた音符や曲想記号の裏には、生きたブラームスの息遣いや感情の高まりが隠れているということを教えてくださいました。とかく拍や音程や和声など、書かれたことを再現するのに懸命になりがちな自分には大きな示唆となりました。さて、次は定演にむけてVivaldiが始まります。新しい楽譜をいただいて音源を聴いてみると、昼なお暗いドイツの黒い森からイタリアの青い空の下に連れ出されたようでした。ドイツレクイエムの世界観から180度転回して、目の前がぱあっと明るく開かれた感じです。レクイエムとグローリアの性質の違いもあります。和声構成も実に明瞭で3年ぶりに明るい顔で歌えますね。ところでブラームスがグローリアを作曲したら、いったいどんな曲になるのでしょうか。どう考えても相当ひねったことをやるに違いないと思いますが、ぜひ歌ってみたいものです。

名曲コンサートを終えて

B28 藤波 明平

昨年11月に入団した藤波です。世田谷区の合唱団に入っている大学時代の友人とバッハのカンタータのバスとオーボエのARIAを合わせているうちに昔から苦手な歌唱も面白いかな、オーボエ演奏にも役立つかなと思いました。入団するとしてもスキーシーズンが終わった4月からの予定で合唱練習を見学させて頂きました。三軒茶屋でのお試し参加ではなじみの薄いドイツレクイエムの7曲目。楽譜を借りて訳も分からず歌ってみてその素晴らしさを感じ、また友人から「二月の演奏会にぜひ出てみたら。」と言われ入団し、皆様から6周おくれのスタートとなりました。

それからが大変で、毎週の練習以外に、坂本先生の音取りビデオや、パソコンソフトで自作したピアノパートに必要な応じて他のパートを合成した音源を用いて、パソコン相手に夜遅くまで練習しました。その間スキー場にもパソコンを携え、夜は歌唱練習やスキー仲間の音大の先生に移動ド、固定ドの話や、6つ振りをする理由などを教えてもらいました。終盤では特に難しいと感じた2曲目、3曲目、6曲目は家内にピアノ伴奏してもらい、なんとか歌え、指揮が見られるようになったのは2月上旬過ぎでした。

本番までの1週間はオケ伴奏に戸惑いながらあっという間に過ぎ、最後まで注意を受けて初めての舞台に立ちました。本番では緊張もせず、精一杯のことが出来ました。友人も「本番が一番良かった」とつぶやいていました。他の合唱団にいる友人たちからは辛口のコメントも有りましたが概ね好評で、家内からは感激して涙がでたと言われました。

練習を通じて認識したことは正しい音程で歌う難しさです。オーボエでは楽譜を見てその音に対応する指使い、吹き込む息を正しくコントロールすれば曲想を表しているかは別にしても楽器が正しい音程を出します。歌唱では初見で、あるいは合奏の中で正しい音程で歌うことはなかなか出来ていません。今後も先生や皆様方に教えて頂き、何とか歌えるようになりたいと思っています。

最後に、名曲コンサートを終えて、この素晴らしいブラームスのドイツレクイエムを歌う機会を与えて下さいましたご指導の先生方、合唱団の皆様、誘ってくれた友人に感謝いたします。

この一年間と名曲コンサートを振り返って

T19 末永 祐一

昨年4月に世田谷区民合唱団に入団し、今回が初めての舞台となった。

指揮が視界に入るように譜面を高め上げ、ゆっくりと演奏は始まった。楽譜を目で追いつ、黒岩先生の大きなモーションに合わせる。強く、弱く、なめらかに、感情を込めて、音程を高く保つなど、先生方から繰り返し教わったことに意識を集中させた。合唱は、これらが自然にできることが第一歩だと、この一年間で学んだが、まずはそのように第七楽章まで通して歌うことができ、満場の拍手をいただいて、達成感と安堵感に包まれた。

声が出てうまく歌えた時の充足感、それ以上に幾つもの旋律が重なる音楽の美しさを味わうことが合唱の楽しみだと思う。今回の各パートの音楽が重層的にからみ合うフーガの旋律には心から感動した。またコンサート会場の空気を突き刺すが如きソリストの声の響きに、足が震えた。

ドイツレクイエムというブラームス渾身の合唱曲を、どれ程理解し、またお客様に伝えることに寄与できたか自信はない。しかし、そんな大作を最後まで何とか歌い切ったこと、そしてこの一年弱の間の練習やコンサートで濃密な時間を過ごせたことは、大変意義深い経験となった。

ご指導くださりお世話になった黒岩先生、坂本先生、杉山先生には、心より深く感謝の意を表します。

名曲コンサートを終えて

B24 三留 修平

ドイツ・レクイエムを初めて聞いた時、その美しさと精妙さ、また高揚感に心を打たれたが、どこからそれが来るのか分からなかった。しかし、ブラームスがルター訳の聖書から選んだ章句で構成され、人の苦悩、儚さ、労働、忍耐、そして慰め、報い、喜びを表現する、いわば「生者のためのレクイエム」だということを学び、合唱練習を通じ、細部まで練られた楽曲構成からレクイエムの最高傑作のひとつだということを肌で感じ、今は自分なりに納得できる。

振り返ると、2021年2月に、第一楽章をZoomで坂本先生にご指導いただいて以来、2年かけて、全楽章を何とか歌ったという、初心者には非常に厳しい曲であった。その上、2022年10月の定期演奏会を終えて、1か月半後の黒岩先生のご指導開始までに第五、六、七楽章をマスターするという、ハードなスケジュールも習熟の遅さに拍車をかけた。更に、第一楽章の表現の不十分さと末尾二楽章が生煮えのまま練習を重ね、黒岩先生からは一貫して同じ注意を受け、レベルが上がらず、何とかしないといけないと焦燥感を感じていた。音取りだけはやっと最終の練習日にはできるようになっていたが、オケ合わせ、GPと進んでも粗が目立ち、十分な自信を持ってないまま、本番当日を迎えてしまった。

いけるかと感じたのは、実に、当日午前の練習中だった。先生方からぎりぎりまで丁寧なご指導をいただき、何とか歌えそうだと感じ、やれると自分に言い聞かせ、本番に臨んだ次第であった。

当日来場された知人、友人、家族の前で歌うことができ、後で感想も聞けた。概ね好評で、特に、団員の熱意と、曲想のすばらしさを演奏から感じたというコメントがうれしかった。合唱経験の深い方からは、母音の伸ばしや強弱表現がさらに欲しかったと黒岩先生と同じポイントの指摘もあった。

ドイツ・レクイエムを全曲歌ったという経験・実績は、今後の合唱活動に様々に生きると感じている。皆様、ありがとうございました。

S01 朝倉 美津子

指揮者のタクトが下りた時、何とか歌い切ったとホッとしました。カーテンコールが続き、その後指揮者、ソリスト、続いてフィルの退場。私達合唱団へ再び拍手が送られた時、お客様へ良い音楽が届けられたのかしらと同時に満足感に満たされました。

第一回第九を歌う会から私の合唱人生は始まり、毎週の練習が楽しく、また新しい曲に出会うことも喜びでした。が、今回のドイツ・レクイエムがこんなに大変な曲とは思いませんでした。秋の定演で4番迄歌ったとはいえ、1時間以上も立ち続けるのは、年を

重ね、この年齢になった私には少々キツイ時間でした。足先はジンジン、関節はコチコチとなり、退場時、転倒の不安がよぎりました。

数日たち疲れが取れてくると、不思議なことにメロディーの数々がフツと湧き上がってくるのです。芽生えたチューリップの鉢に水をあげている時、台所に立っている時、また電車の中でも…。あれほどまでにゆっくりなテンポだったことで体に染み込んでいったのでしょうか。

この寄稿文を書いている時、ラジオから「次は黒岩英臣指揮、東京フィルハーモニーによる『おもちゃの兵隊』です」と軽快な曲が流れてきました。2002年以前に収録されたと思われるアップテンポな楽しいメロディーでした。偶然に、突然に、黒岩先生の若い頃に出会えた不思議な瞬間でした。

アルトに魅せられて

A67 柴田 巳奈子

不安がいっぱいの名曲コンサートを歌い切りました。

3年ぶりの人見記念講堂で難曲ドイツ・レクイエムを歌い終えた時は安堵感と先生方や団員の仲間に感謝の気持ちでいっぱいでした。勿論、世田谷フィルの皆様にも感謝です。私は昨年の定演では第4楽章迄ソプラノパートを歌っていましたが、以前からアルトパートを歌ってみたい気持ちがありましたが、実現できずにいました。あるきっかけから私の希望がかなったのです。しかし、曲の途中からの変更はやはり大変でした。何故ならメロディーが単純でないばかりか、#や♭が付く音符ばかりが並んでいるではありませんか。特に1から4楽章ではソプラノのメロディーが脳裏に強く残っていたためかなじめず苦勞しました。しかし歌い終えてみるとアルトパートには想像以上の面白さと複雑さがあり、やりがいも感じました。アルトの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

本番当日演奏が終わり、舞台袖にいらした嵐田先生に「二階席迄声が響いてとてもよかったです」とおっしゃって頂いた時はうれしかったです。二度も「本当ですか？」とうかがってしまいました。黒岩先生も何度も舞台に登場して最後は合唱団にも笑顔を向けてくださいました。

そして次の定演に向けての演目の練習が始まりました。気持ちも新たに女声ハーモニーの美しさを追い求め、混声合唱の素晴らしさを実感できるような演奏会ができたらうれしいです。アルトパートと一緒に歌ってみませんか。



第54回東京都盲人福祉大会・世田谷区「視力障害者福祉協会創立60周年大会
成城学園澤柳記念講堂にて開催されたこの大会に参加しました



11月13日(日)、晩秋にしては暖かい朝に、隣接する成城ホールに集合した合唱団は声出し、最後のリハーサルをしました。指揮は坂本英明先生、ピアノは西谷幸子先生、披露する楽曲は演奏順にカンタータ「土の歌」より「大地讃頌」、「アヴェ・ヴェルムコルプス」、「ほほえみ」より「憧れ」、「ねんねんねっころやまのネムのはな」、「ほほえみ」、オペラ「ナブッコ」より「行けわが想いよ、黄金の翼に

乗って」です。始めの2曲以外は、定演で歌った曲です。舞台の割に人数が少なかったことと、ピアノの位置が舞台上ではなく、下だったため全員が弧を描くように並び互いの声を意識しながら観客席に届くように歌いました。それまでのカラオケ大会の雰囲気と打って変わった楽曲にどうなるか少し心配もしましたが、たくさんの拍手をいただきました。最後に観客の皆様と一緒に「上を向いて歩こう」「手のひらを太陽に」を歌って盛り上がりました。大きな花束が坂本先生に贈られ、舞台を後にしました。



世田谷区民合唱団ボランティア企画会活動報告

報告 A66 高橋 治世

202 回おたのしみコンサート

2022 年 12 月 8 日 (木) 14 時～15 時 デイホーム世田谷 参加 10 名
指揮 S 添田、S 矢口、後藤、平田、大久保。A 奥谷、高橋。B 篠田、大月
ピアノ秋山

1 部 奥谷司会 ①花のまわりで②おおシャンゼリゼ③ここに幸あり
④星に願いを⑤かあさんの歌⑥大きな古時計 5 分休憩

2 部 観客と一緒に発声練習

⑦みかんの花咲く丘⑧青い山脈⑨高原列車 ⑩きよしこの夜

⑪かあさんの歌 ⑫おおシャンゼリゼ ⑬今日のひととき

午後 1 時に現地集合でみっちり 1 時間練習してから本番へ。全員が少しずつソロの部分を担当し、少人数ながら楽しく盛り上がりのあるクリスマスバージョンコンサートに仕上がった。2 部は観客も歌詞を見ながら一緒に歌うが、「かあさんの歌」はいつも感動してもらえる。

施設職員の方々も協力的で、定期的だけでなくいつでも来てくださいと言われた。

2022 年度 12 月から 3 月までの練習実施

12 月 1 日弦巻区民センター、1 月 19 日弦巻区民センター

2 月 28 日太子堂区民センター、3 月 14 日三軒茶屋区民集会所

1 月 19 日の練習時には S 松永さん、小沢さん、矢花さん、三角さんの 4 名が、ハワイアン「真珠貝の歌」のウクレレ伴奏で参加して下さった。

2023 年度訪問予定： 203 回 4 月 13 日 デイホーム太子堂

204 回 5 月 19 日 デイホーム中町。



編集後記

3 年ぶりの名曲コンサートを無事に成功させて、団員の皆様にはきっと安堵の気持ちでいっぱいなのではないでしょうか。特に大詰めの頃の練習は、1 曲目から 7 曲目迄通しての練習が多くなり、途中休憩もなく立ち続けでした。

でもその甲斐あってたくさんの拍手をいただきました。頑張ってきた私達にはうれしい瞬間でしたね。広い会場にたくさんの観客をお迎えして、大曲を演奏する醍醐味を十分感じることができました。

今年の定演ですが、残念ながら新しい区民ホールでの開催はできませんが、聴いて下さる観客の皆様の心に届くよう想いを込めて歌いましょう。そのためにはやはり練習ですね。さらに HP を活用して皆様、練習に励みましょう。

記 柴田



